

## Feature

### The method know the person to challenge

フォトビザには世界中から写真家  
30名が招待された。吉田さんは  
展示とレクチャーを行った。



ロシア最大のギャラリー Lumiere Brothers Center  
for Photographyでのオープニングトークの様子。



TVや雑誌など取材を多数受  
けたそう。ギャラリーが作品  
を販売する本気度が分かる。

「何を準備すればいいのかもわからな  
いまま、海外に行ってしまったんです。  
アーティストステートメント(※1)と言  
われてもよくわからないし、英語も片言  
でもとりあえず行ってみよう」と  
2010年、海外で作品を売ってみた  
という思いではじめてアルル国際写真  
フェスティバルのポートフォリオレビ  
ューを受けた吉田繁さん。「結局、何もわ  
からないということがわかりましたね  
(笑)」。翌年、再チャレンジしようとした  
震災後の7月に再度アルルを訪れると、レ  
ビューアーは一斉にこう尋ねた。  
「日本はどうだと聞かれるんです。ダ  
メージの状況ではなく、震災によってあ  
なたの思想やプロジェクトはどう変わっ  
たのかと。あれだけのことがあれば当然  
影響を受けるわけで。でも僕は、説明で  
きなかったんですよね」  
それから自分の思想をヴィジュアルに  
込めた作品をつくらうと、被災地を訪ね  
た。現地で気づいたのは、海に向かって  
祈る人々が多いということ。津波に何も  
かも奪われた人たちが、海や壊れた港に  
向かって手を合わせている。その祈る  
人々の心を写そうと、日本の海を撮影し  
たのが「ポーター」というシリーズだ。  
「写真で人の心を開き、安定を取り戻し  
たい」という主旨のステートメントを書  
き2012年に訪れたヒューストン・フ  
ォトフェスティルのロビー(※2)で写真を見  
せたロシアのギャラリーと契約に至った。  
「パリフォトで会おうという話になっ  
て、現地で契約をしました。2014年  
にモスクワで2か月個展を開催して、そ

の個展がきっかけとなって、国際写真祭  
フォトビザにも招かれたんです」  
アドバイザーをもらうだけのレビューも  
あれば、価値を決める人が力を使える  
レビューもある。目的によっても違いますが、  
フォトフェスティバルに呼んでもらえたり、  
個展を開催したり、力を使える人  
に出会うことは重要。来年もヒュース  
トン・フォトフェスティルに参加する予定だ。  
「自分をリニューアルして新しいもの  
を提案しないとアートマーケットには残  
れないし作品の値段が上がることはあり  
ません。始めたばかりなのでうまく行か  
ないかもしれないけれど、次は新しいもの  
を持って行こうと思っています」  
吉田さんは新しい世代に経験や技術を  
伝えることにも精力を注いでいる。  
「プリントなど技術面はすぐに世界レ  
ベルにいきますよ。みんな本当にうまい  
し、少し教えればすぐに上達します。足  
りないのはプレゼン力かもしれませんね。  
僕もフォトビザで1時間半のレクチャー  
の準備をするのにとっても苦労しました。  
数分、でも、1時間半。でも作品につい  
て伝えられなくてはいけません。いろんな  
立場の人にどう伝えるのかを考えること  
は、とても重要ですね」  
もうひとつ関心を持っているのは、ジ  
ャーナリズムではなく、フォトアートで  
社会に貢献すること。  
「作品が売れたら売れたで嬉しいので  
すが、写真はいままでの人生ですつとや  
ってきたこと。貢献できることをやりた  
いなと思うし、次に行く人が楽になるよ  
うに教えてあげたいとも思っています」

よしだしげる  
1958年東京生まれ。日本大  
学経済学部卒。広告や雑誌な  
どの撮影を行いながら、自然  
を中心に作品制作を続けている。  
海外のギャラリー向けに  
オリジナルプリントの販売を  
行う。世界のアート市場での  
作品販売を目指して活動する  
クラブ「サムライフォト」の  
ディレクターを務める。

#### 世界の主なポートフォリオレビュー

ヒューストンフォトフェスト (アメリカ・ヒューストン)  
レビューサンタフェ (アメリカ・サンタフェ)  
フォトルシーダ (アメリカ・ポートランド)  
ニューヨークポートフォリオレビュー (アメリカ・ニューヨーク)  
アルル国際写真祭 (フランス・アルル)

#### ポートフォリオレビューとは

あらかじめ予約したレビューアーに約20分  
間、作品を見せプレゼンができる場。レビュ  
アーはギャラリストや美術館のキュレータ  
ー、編集者などで、新しい才能を発掘したり、  
情報交換の場としても活用されている。



[border 2014.]

## 海外の ギャラリーで 作品販売に 挑戦する



# Shigeru Yoshida

吉田 繁

文=編集部 PHaT PHOTO

(※1) 作家自身についてやなぜその作品を制作しようと思ったのか、それによって何を表現したいのかということが明確に書かれた文章  
33 (※2) 予約したレビューアー以外には基本的に会えないため、他のレビューアーなどには、ロビーでCDを渡したり自己紹介したり「ロビー活動」するそう